

# 看護学生の社会的スキル獲得状況に関連する生活体験および 自我状態

坂本弘子<sup>1)</sup> 福森利智子<sup>2)</sup> 木村紀美<sup>3)</sup>

## 要旨

看護学生が経験してきた生活体験や自我状態が社会的スキル獲得にどの程度関連しているかを明らかにし、今後の指導の方向性を検討した。社会的スキルの総得点は、平均 60.19 点、下位尺度で点数が高かったのは基本的スキル、点数が低かったのは計画のスキルであった。部活動経験では、スポーツ系が文化系より、総得点、下位尺度の点数が高かった。アルバイト経験、ボランティア経験では、経験ないと回答したものの方が、総得点が高かった。自我状態との関連では、FC 優位型、次いで NP 優位型の得点が高く、低いのは AC 優位型であった。AC 優位型は依存者タイプであり、自発的な行動や自信をもって行動することが苦手であり積極的な行動が不得意である。今後、AC 優位型の学生に対して、自信を持たせ、自発的に行動できるように促していくことが必要である。

キーワード：看護学生 社会的スキル 生活体験 自我状態

## I. はじめに

近年、子どもを取り巻く社会情勢はめまぐるしく変化している。少子高齢化による兄弟の減少、高学歴化に伴う学習年数の延長、女性の就労率の増加による母親の育児時間の減少、離婚率の上昇に伴うひとり親世帯の増加などがあげられる。厚生労働省（2010）の統計<sup>1)</sup>によれば、このうち未成年の子どもがいる親が離婚する割合は 58.3%で、年間約 24 万人の子どもが親の離婚を経験していることになる。このような環境の変化は、他者への関心や愛着は希薄で人間関係や人付き合いはお互いに深入りしない表面的なものになりがちで、やさしさや思いやりが育ちにくい。また、子ども自身から人に積極的に働きかけて関係をつくっていくとする行動をとることも少なく、やさしさや思いやりを表現することや人との関係をつくる場が減少してきている。

看護の実践能力の一つに、人間関係調整能力がある。看護の基盤は、患者と看護者の対

人関係が重要であり、関係性が成立してはじめて看護ケアの展開ができる。看護者には患者が語る内容や行動、感情を理解し、患者の言葉や感情を表現して患者に伝達し、相互の理解を深めるための傾聴や共感などのコミュニケーションスキルが求められる。初めて出会う患者に対し、学生自らがすすんで声をかけ、良好な関係を維持し、信頼関係を深めていくことが求められる。菊地<sup>2)</sup>は、思いやり行動を支えているしくみとして「共感性」をあげ、他の社会的な行動の先行条件となり、相手に対して何らかの援助を含んだ行動が向社会的行動であると説明している。

現代の大学生は、経験、特に対人関係の経験不足が目立つという指摘があり、対人関係能力を含む社会的スキルを獲得することは重要である。これまでは、対人関係に必要な能力は自然に身に付くと考えられてきたが、さまざまな体験や異なる年齢層との交流の機会が乏しく、価値観や生き方が多様化している社

会において、積極的に能力獲得の支援を行うことが重要であると考え、人間の性格は、親から受け継いだものや、育った環境、その人の年齢、経験などさまざまな要素で作られる。木村<sup>3)</sup>らの報告では、実習を展開するにあたり学生自身が自分の自我状態に気づき、指導者も学生個々の自我状態を知った上で、伸ばしていけるような関わりが必要であると述べている。看護学生が経験してきた生活体験や自我状態が学生の社会的スキル獲得にどの程度関連しているかを明らかにし、今どきの学生の状況を把握し、今後の指導の方向性を検討する。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 調査期間

平成 30 年 8 月

### 2. 調査対象

本学看護学科 1 年生、75 名に質問紙を配布し、38 名の回収を得た。そのうち、回答に未記入がある 7 名を対象から除外し、31 名を調査対象とした。有効回答率は、41.3%であった。

### 3. 調査内容（資料 1）

基礎調査項目として生活体験と、調査時の自我状態を測定し、社会的スキルを測定するにあたっては、菊地によって開発された Kiss-18 (Kikuchi's Scale of Social Skill-18) を用いた。Kiss-18 は、信頼性や妥当性も広く確認されており、若者の社会的スキルを測定する 18 項目から構成されている。下位尺度は、①基本的なスキル（自己紹介・会話の継続）、②より高度なスキル（依頼・謝罪）、③感情処理スキル（自制心・感情表現）、④攻撃に代わるスキル（他者とのトラブル処理・他者の援助）、⑤ストレス処理のスキル（矛盾した情報の処理・集団圧力への対応）、⑥計画のスキル（問題の発見・目標設定）の 6 つの下位尺度からなる。「5. いつもそうだ」「4. そうだ」「3. どちらでもない」「2. そうでない」「1. いつもそう

でない」の 5 段階評定で、回答を求めた。

基礎調査項目としての生活体験の内容については、祖父母と同居しているか、兄弟の数、部活の有無とスポーツ系か文化系か、アルバイト経験の有無、ボランティア経験など社会活動の有無、祖父母との交流の有無、母親の就業状況とした。自我状態については、エゴグラムを用い、分析方法は CP 優位型（がんこ親父タイプ）、NP 優位型（世話やきタイプ）、A 優位型（コンピュータータイプ）、FC 優位型（自由奔放タイプ）、AC 優位型（依存者タイプ）の 5 つの優位型にパターン分類をした。

### 4. 分析方法

結果の分析には、4steps エクセル統計を用いた。社会的スキル Kiss-18 を目的変数とし、自我状態、生活体験の内容を説明変数とした。自我状態の 3 群である NP 優位型、FC 優位型、AC 優位型の総得点、下位尺度の平均値の差の検定は一元配置分散分析を用い、基礎調査として生活体験の内容と総得点と下位尺度の平均値の差の検定には t 検定（両側検定）を行った。結果の統計的有意水準は 5%未満とした。

### 5. 倫理的配慮

対象者に対しては、調査票の表紙に、研究の動機、目的、方法、匿名性の厳守に関する配慮点を述べ、研究参加は自由意思であり、回答内容は全て統計的に処理し、研究目的以外には使用しないことを明記した。

調査票の配布は、講義終了後に行い、回収方法は回収箱を設置し、留め置き法とした。また、研究同意については、調査票の回答をもって同意とみなすことを説明した。

データは無記名で、ナンバリングを行い集計することで、学生個人が特定されることは無い。また、研究結果が学生の実習成績評価に影響することは無い。さらに、データ処理はインターネットに接続されていないパソコンで実施し、入力されたデータはパソコン本体ではなく外づけのメモリ媒体で管理した。媒体そのものは鍵のかかった引き出しに保管

し、研究終了後はデータを速やかに破棄することとした。本研究は、八戸学院大学・八戸学院短期大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 対象者の基礎調査項目と自我状態

対象者の性別は、男性4名、女性26名、無回答1名、年齢は10歳代が30名、無回答1名であった。祖父母と同居しているのは14名、同居していないのは16名、無回答は1名であった。高校時代の部活動は、スポーツ系が15名、文化系が14名、無しが2名であった。高校時代のアルバイト経験は、有りが16名、無しが15名であった。ボランティア経験の有無は、有りが28名、無しが3名であった。祖父母との交流では、毎日交流が最も多く16名で、次いで月に一回程度が7名であった。母親の就業

状況では、フルタイムが22名、パートが5名、主婦が2名、無回答が2名であった。

自我状態の結果では、NP優位型11名、FC優位型9名、AC優位型11名であり、CP優位型、A優位型がともに0人であった。

#### 2. 社会的スキル平均得点（表1）

社会的スキルの総得点は、平均60.19点、最大値82点、最小値は35点であった。下位尺度で最も点数が高かったのは、基本的スキル10.25点、次いで攻撃に代わるスキルとストレス処理のスキルが同率の10.22点、より高度なスキル10.12点、感情処理スキル10.09点、計画のスキルが最下位で9.25点であった。

#### 3. 自我状態と社会的スキル総得点と下位尺度の平均値（表2）

##### 1) 総得点の平均値

表1. 社会的スキル平均得点 (n=31)

	平均値	標準偏差	最大値	最小値
総得点	60.19	11.38	82	35
基本的スキル	10.25	3.20	15	4
より高度なスキル	10.12	2.53	15	6
攻撃に代わるスキル	10.22	2.10	15	6
感情処理スキル	10.09	2.42	15	6
計画のスキル	9.25	1.87	13	5
ストレス処理のスキル	10.22	2.41	15	5

表2. 自我状態と社会的スキル総得点と下位尺度の平均値

	1位	2位	3位	F値	P値
総得点	FC 62.77	NP 62.27	AC 56.00	1.17	.323
基本的スキル	NP 11.36	FC 11.11	AC 8.45	3.09	.060
より高度なスキル	FC 11.11	NP 10.45	AC 9.00	1.97	.158
攻撃に代わるスキル	NP 10.63	FC 10.44	AC 9.63	0.67	.518
感情処理スキル	FC 10.33	NP 10.27	AC 9.72	0.18	.829
計画のスキル	AC 9.36	NP 9.27	FC 9.11	0.04	.958
ストレス処理のスキル	FC 10.66	NP 10.27	AC 9.81	0.29	.747

NP優位型 (n=11) FC優位型 (n=9) AC優位型 (n=11) P<0.05

総得点の高いのは FC 優位型で 62.77 点、次いで NP 優位型の 62.27 点であった。最も得点の低いのは AC 優位型 56.00 点であった。

#### 2) 基本的スキルの平均値

基本的スキルの得点が高いのは、NP 優位型 11.36 点、次いで FC 優位型 11.11 点であった。最も得点の低いのは AC 優位型 8.45 点であった。

#### 3) より高度なスキルの平均値

より高度なスキルの得点が高いのは、FC 優位型 11.11 点、次いで NP 優位型 10.45 点であった。最も得点の低いのは AC 優位型 9.00 点であった。

#### 4) 攻撃に代わるスキルの平均値

攻撃に代わるスキルの得点が高いのは、NP 優位型 10.63 点、次いで FC 優位型 10.44 点であった。最も得点の低いのは AC 優位型 9.63 点であった。

#### 5) 感情処理スキルの平均値

感情処理スキルの得点が高いのは、FC 優位型 10.33 点、次いで NP 優位型 10.27 点であった。最も得点の低いのは AC 優位型 9.72 点であった。

#### 6) 計画のスキルの平均値

計画のスキルの得点が高いのは、AC 優位型 9.36 点、次いで NP 優位型で 9.27 点であった。最も得点の低いのは FC 優位型 9.11 点であった。

#### 7) ストレス処理の平均値

表 3. 部活動と社会的スキル (標準偏差)

	スポーツ系 n=15	文化系 n=14	P 値
総得点	61.33 (10.3)	58.14 (12.9)	.471
基本的スキル	10.6 (2.89)	9.71 (3.72)	.479
より高度なスキル	10.4 (2.61)	9.64 (2.61)	.442
攻撃に代わるスキル	10.4 (2.19)	9.92 (2.16)	.565
感情処理スキル	10.2 (2.39)	9.92 (2.64)	.774
計画のスキル	9.40 (1.76)	9.00 (2.11)	.583
ストレス処理のスキル	10.3 (1.91)	9.92 (2.97)	.664

$P < 0.05$

表 4. 家族形態と社会的スキル (標準偏差)

	祖父母と同居あり n=14	祖父母と同居なし n=16	P 値
総得点	61.14 (2.88)	59.37 (12.53)	.684
基本的スキル	9.78 (3.19)	10.69 (3.36)	.490
より高度なスキル	9.64 (2.09)	10.50 (2.94)	.372
攻撃に代わるスキル	10.64 (2.16)	9.87 (2.12)	.336
感情処理スキル	10.85 (2.50)	9.50 (2.30)	.134
計画のスキル	9.35 (2.02)	9.18 (1.86)	.813
ストレス処理のスキル	10.85 (2.21)	9.68 (2.60)	.198

$P < 0.05$

ストレス処理のスキルの得点が高いのは、FC 優位型 10.66 点、次いで NP 優位型 10.27 点であった。最も得点の低いのは AC 優位型 9.81 点であった。

#### 8) 生活体験の内容と社会的スキル

高校時の部活動をスポーツ系に所属していた群と文化系に所属していた群の社会的スキル得点を比較した（表 3）。スポーツ系の方が、文化系より、総得点を含め、すべての下位尺度の点数が高かった。祖父母と同居している群と同居していない群の社会的スキル得点を比較した（表 4）。祖父母と同居している群が、総得点が高いという結果

であった。下位尺度については大きな違いはみられなかった。アルバイトの経験のある群とアルバイトの経験のない群の社会的スキル得点を比較した（表 5）。アルバイトの経験がない群が、総得点が高いという結果であった。下位尺度については大きな違いはみられなかった。ボランティアの経験のある群とボランティアの経験のない群の社会的スキル得点を比較した（表 6）。ボランティア経験のない群が、総得点が高く、下位尺度の計画のスキルを除いて、他の 5 項目の尺度が高いという結果であった。その中でも攻撃に代わるスキルのみが有意差が

表 5. アルバイトの体験と社会的スキル（標準偏差）

	アルバイト経験あり n = 16	アルバイト経験なし n = 15	P 値
総得点	59.75 (12.12)	60.66 (10.93)	.827
基本的スキル	10.25 (2.86)	10.26 (3.63)	.988
より高度なスキル	9.87 (2.50)	10.40 (2.64)	.573
攻撃に代わるスキル	10.25 (2.29)	10.20 (1.97)	.948
感情処理スキル	10.16 (2.51)	10.13 (2.41)	.936
計画のスキル	9.43 (1.93)	9.06 (1.86)	.591
ストレス処理のスキル	9.87 (2.44)	10.60 (2.41)	.413

P<0.05

表 6. ボランティアの体験と社会的スキル（標準偏差）

	ボランティア経験あり n = 28	ボランティア経験なし n = 3	P 値
総得点	59.78 (11.40)	64.00 (12.76)	.551
基本的スキル	10.25 (3.35)	10.33 (1.57)	.966
より高度なスキル	10.25 (6.49)	9.00 (2.64)	.427
攻撃に代わるスキル	9.96 (1.97)	12.66 (2.08)	.032*
感情処理スキル	9.92 (2.35)	11.66 (3.05)	.244
計画のスキル	9.17 (1.88)	10.00 (2.00)	.481
ストレス処理のスキル	10.21 (2.39)	10.33 (3.21)	.937

\*P<0.05



みられた (P 値. 032) .

#### IV. 考察

今回の調査は、質問紙の配布から回収までの期間に休暇が入ってしまい、調査の時期を見直す必要があった。入学して間もない時期の調査とした方が、今どきの学生を理解することにつながり、入学後の成長を評価することができる。

基礎調査の属性では、祖父母と同居、祖父母と毎日交流していると回答したものが約半数であり、異なる年齢層との交流の機会がやや多いといえる。内閣府高齢社会白書<sup>4)</sup>によると 65 歳以上の高齢者の子供との同居率は、2014 年には 40.6%であり、本学学生は、約 5 割であった。アルバイト経験については、約半数がありと回答しており、対人関係のスキルアップにつながる可能性が高く、社会的スキルの得点につながると考えた。しかし、実際には有意差がみられず、アルバイト経験がないと回答した者が総得点、基本的スキルの点数が高いという結果であった。このことは、アルバイトの内容が対人なのかどうかの影響すると考えられ、さらに調査する必要がある。ボランティア経験がある学生は、9 割と多く医療職を目指す学生の意識の高さを表している。ただし、本研究で社会的スキル得点を比較するには、n 数が 3 人と極端に少ないことから、データの信憑性が低い。部活動は 9 割以上の学生が経験しており、スポーツ系が文化系よりも、総得点、すべての下位尺度において高かった。このことは、スポーツ系の部活は、積極的な行動を求められる場面が多いためと考える。質問紙には部活動の内容を、個人活動が主か、集団活動が主かを設問したが、設問の仕方が不備であったため、殆ど記入がなかった。個人活動では、対人が少なく、集団活動では対人が多く、社会的スキルに影響すると考える。また、自我状態の分析では FC 優位型、AC 優位型が 6 割以上を占めており、一般的にいわれている

看護学生の自我状態の特徴である NP 優位型には、今後学習がすすむ中で変化すると考える。

社会的スキルを測る Kiss-18 の大学生の標準化総得点<sup>5)</sup>の平均は 53.08 点、看護学生を対象にした研究では 58.25 点<sup>6)</sup>、60.2 点<sup>7)</sup>というデータがある。本学 1 年生の平均値は 60.19 点で大きな違いはみられなかった。看護学生は、他学科の学生と比較して対人関係に自信を持つ学生が入学し社会的スキルが比較的高いといわれている。本研究の社会的スキル得点は、既存の研究と変わらなかった。

自我状態と社会的スキル総得点、下位尺度の関連をみると、計画のスキルを除いて、最も点数が低いのは AC 優位型であった。AC 優位型は依存者タイプであり、自発的な行動や、自信をもって行動することが苦手であり積極的な行動が不得意であると予測される。今後、AC 優位型の学生に対して、自信を持たせ、自発的に行動できるように促していくことで社会的スキルの得点は上昇すると考える。

#### V. 研究の限界

社会的スキルを測る Kiss-18 は、回答者自身が認知している社会的スキルの程度を把握するもので、客観的なデータではないということ加味する必要がある。また、自我状態についても回答時の状況を示すもので、今後変化することが予想される。

#### VI. 結論

1. 社会的スキルの総得点は、平均 60.19 点、下位尺度では、最も点数が高かったのは基本的スキルで、計画のスキルが最も点数が低かった。
2. 自我状態と社会的スキルの関連では、総得点の高いのは FC 優位型 62.77 点、次いで NP 優位型の 62.27 点、最も得点の低いのは AC 優位型で 56.00 点という結果であった。AC 優位型は下位尺度についても、計画のスキルを除き、得点が低かった。

3. 部活動経験では、スポーツ系が、文化系より、総得点、すべての下位尺度の点数が高かった。
4. アルバイト経験、ボランティア経験では、経験ないと回答したものが、総得点が高く、下位尺度については大きな違いはみられなかった。

## VII. 謝辞

本研究の主旨を理解し、調査にご協力を頂いた本学看護学科1年生に深く感謝申し上げます。

## 文献

- 1) 厚生労働省：平成22年(2010)人口動態統計の年間推計  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suikei10/>. 2018/3/10 閲覧
- 2) 菊池章夫他：Kiss-18の妥当性についての一資料：尚網学院大学紀要56. P261-264, 2008
- 3) 木村紀美他：エゴグラムの変動と看護学実習評価との関連. 日本看護学教育学会誌, 6: 45-52. 1996.
- 4) 内閣府：高齢化の状況  
[www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/html/zenbun/s1\\_2\\_1.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/html/zenbun/s1_2_1.html)  
2018/10/1 閲覧
- 5) 菊池章夫(2007) Kiss-18研究の現状：社会的スキルを測るKiss-18ハンドブック(菊池章夫), 川島書店, 東京
- 6) 野崎智恵子他：1年間の経過からみた看護大学生の社会的スキルと自己効力感, 生活体験の関連, 東北大学医短部紀要11, P237-243, 2002
- 7) 野崎智恵子他：看護大学生の社会的スキル, 日本看護学会看護教育論文集30, P74-76, 1999
- 8) 武田かおり他：看護大学生の社会的スキル関連する生活および実習体験. 名寄市立大学道北地域研究所年報, 30: 21-27, 2012.
- 9) 尾原喜美子：看護学生の関係づくり行動の変化ー作成した関係づくり行動尺度を使用してー. 日本看護研究学会雑誌, 29: 83-92, 2006.
- 10) 藤森由子他：地方私立看護系大学生における職業的アイデンティティと進路決定プロセスの関連. 日本看護学教育学会誌, 27: 53-60, 2017.
- 11) 林美佐他：看護教員のレジリエンスの実態と関連因子ー自己教育力と職場内のソーシャルサポートに焦点を当ててー. 日本看護学教育学会誌, 26: 1-11, 2017.
- 12) グレグ美鈴他：新卒看護師の臨床における学び方の獲得に関する経験. 日本看護学教育学会誌, 27: 39-50, 2017.
- 13) 奈良知子：看護学生のコミュニケーション技術教育の効果と問題点. 弘前医療福祉大学, 1: 59-66, 2009.
- 14) 加藤司：看護学生における対人ストレスコーピングがストレス反応に及ぼす影響. 東洋大学人間科学総合研究所紀要, 7: 265-275. 2007.
- 15) 水畑美穂他：臨床実習における学生と患者の人間関係形成におけるプロセス・ベナード及びワトソン理論による分析ー. 川崎医療福祉学会誌, 15: 149-159. 2005

## 資料

## I.基礎調查項目

大学入学前の生活体験についてお答えください。

- 1.あなたの性別と年代をお聞きます。あてはまるものに○を記入してください。
- |       |       |        |        |       |
|-------|-------|--------|--------|-------|
| 1) 性別 | 男性    | 女性     |        |       |
| 2) 年代 | 20歳未満 | 20～24歳 | 25～29歳 | 30歳以上 |
- 2.入学前に一緒に住んでいた方に○を、カッコに人数を記入してください。  
他に住んでいる方がいる場合にはカッコに記入をお願いします。
- |        |      |      |      |      |
|--------|------|------|------|------|
| 父      | 母    | 祖父   | 祖母   |      |
| 兄( )   | 弟( ) | 姉( ) | 妹( ) | 一人っ子 |
| その他( ) |      |      |      |      |
- 3.高校時代の部活の有無についてお聞きます。あてはまるものに○を記入してください。
- |           |        |    |
|-----------|--------|----|
| 1) スポーツ系  | 文科系    | なし |
| 2) 個人活動が主 | 集団活動が主 |    |
- 4.高校時代にアルバイトの経験がありますか。あてはまるものに○を記入してください。
- |    |    |
|----|----|
| ある | ない |
|----|----|
- 5.高校時代にボランティアなど社会活動の経験はありますか。あてはまるものに○を記入してください。
- |    |    |
|----|----|
| ある | ない |
|----|----|
- 6.高校生までの間に、祖父母との交流がありましたか。
- |    |          |        |        |      |
|----|----------|--------|--------|------|
| 毎日 | 週に2～3回程度 | 週に1回程度 | 月に1回程度 | 殆どなし |
| なし |          |        |        |      |
- 7.母親の就業状態についてお聞きます。あてはまるものに○を記入してください。
- |        |      |       |
|--------|------|-------|
| ①フルタイム | ②パート | ③専業主婦 |
|--------|------|-------|

## Ⅱ.社会的スキル「KiSS-18」

次項の質問について、5.いつもそうだ 4.そうだ 3.どちらでもない 2.そうでない 1.いつもそうでない、のあてはまる番号に○をつけてください。

1. 他人与話して、あまり会話が途切れない方ですか。
- 5 4 3 2 1
2. 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか。
- 5 4 3 2 1
3. 他人を助けることを、上手にやれますか。
- 5 4 3 2 1
4. 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか。
- 5 4 3 2 1



5.知らない人とでも、すぐに会話が始められますか。

5                  4                  3                  2                  1

6.まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きても、それを上手に処理できますか。

5                  4                  3                  2                  1

7.こわさや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか。

5                  4                  3                  2                  1

8.気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか。

5                  4                  3                  2                  1

9.仕事をするときに、何をどうしたらよいか決められますか。

5                  4                  3                  2                  1

10.他人が話しているところに、気軽に参加できますか。

5                  4                  3                  2                  1

11.相手から非難されたときにも、それをうまく片付けることができますか。

5                  4                  3                  2                  1

12.仕事の上で、どこに問題があるかすぐに見付けることができますか。

5                  4                  3                  2                  1

13.自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか。

5                  4                  3                  2                  1

14.あちこちから矛盾した話が伝わってきても、うまく処理できますか。

5                  4                  3                  2                  1

15.初対面の人に、自己紹介が上手にできますか。

5                  4                  3                  2                  1

16.何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか。

5                  4                  3                  2                  1

17.まわりの人たちが自分とは違った考えをもっている、うまくやっていけますか。

5                  4                  3                  2                  1

18.仕事の目標を立てるのに、あまり困難を感じないほうですか。

5                  4                  3                  2                  1